

計画の指標の見直しについて

指標名	現況値	目標値 実績値		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	見直しの理由等
【2-1】 日頃、放射線の影響が気になると回答した県民の割合 （意識調査）	29.1% （R3）	目標値	変更前	29% 以下	29% 以下	29% 以下	29% 以下	29% 以下	29% 以下	29% 以下	29% 以下	29% 以下	【見直しの分類】 目標値の上方修正 ○当初の指標の設定根拠（総合計画に記載している内容） 空間線量率測定や安全・着実な廃炉作業の促進など、安全・安心の確保の取組に対する県民意識について把握し、更なる取組の推進を図る。空間線量率については自然減衰などによる低減が見込まれるため、現況値以下を目標値とした。 ○目標値の見直し理由 R7実績値が16.8%であり、目標値である29%を約12ポイント下回っている。今後も正確で分かりやすい情報発信により、放射線に対する県民の不安を減少させる必要があることから、目標値の上方修正を行う。 ○見直し後の目標値の設定根拠 県内原発の廃炉作業の進展やトラブルの発生等によって県民の放射線に対する不安や関心が変化 する中、廃炉完了まで県民の安全・安心を確保していく必要があることから、県内全域でのモニタ リングや各種媒体を通じた情報発信に取り組むことで、前年度値以下を目指す。
			変更後	29% 以下	29% 以下	29% 以下	29% 以下	前年度値 以下	前年度値 以下	前年度値 以下	前年度値 以下	前年度値 以下	
		実績値		24.9 %	23.1 %	20.1 %	16.8 %						
指標名	現況値	目標値 実績値		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	見直しの理由等
【2-2】 市町村における原子力防災訓練実施 回数	3 回 （R2）	目標値	変更前	6回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	【見直しの分類】 目標値の上方修正 ○当初の指標の設定根拠（総合計画に記載している内容） 訓練を通じて原子力防災体制の充実・強化を図るため、関係13市町村において、内閣府の原子力 防災訓練ガイダンスに基づき2年に1回程度実施することとし、6回を各年度の目標値とした。 ○目標値の見直し理由 東日本大震災における教訓を後世に引き継いでいくためにも、原子力災害対策重点区域である13 市町村においては県の訓練と合同で行うなど、年に 1 回は実施するよう、目標値の上方修正を行 う。 ○見直し後の目標値の設定根拠 市町村が独自に原子力防災訓練を企画・運営するためには人員等が不足している状況であるた め、県が主催する訓練に併せての訓練実施等を働きかけながら、毎年度、訓練実施市町村数を増加 させていき、R12までに県及び13市町村にて毎年訓練を実施していく体制を目指して目標値を設定 した。
			変更後	6回	6回	6回	6回	7回	8回	10回	12回	13回	
		実績値		7回	6回	10回	9回						

計画の指標の見直しについて

指標名	現況値	目標値 実績値		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	見直しの理由等
【6-2】 12歳でむし歯のな い者の割合	60.4% (R元)	目標値	変更前	65.0 以上	65.0 以上	65.0 以上	65.0 以上	65.0 以上	65.0 以上	65.0 以上	65.0 以上	65.0 以上	【見直しの分類】 目標値の上方修正 ○当初の指標の設定根拠（総合計画に記載している内容） 健康寿命の延伸につながる歯と口の健康を保つため、 歯の保有状況や歯を失う原因となる永久歯のむし歯の状況を把握し、目標年度までに各指標の上昇・維持を目指す。目標値は国の目標値や県の実績を踏まえて設定した。
			変更後	65.0 以上	65.0 以上	65.0 以上	68.5 以上	72.0 以上	75.5 以上	79.0 以上	82.5 以上	86.0 以上	○目標値の見直し理由 フッ化物洗口事業等の普及活動の結果、R6実績値が目標値を上回り、経年的な実績値を確認するとR1:60.4%、R2:61.8%、R3:63.8%となっており、データの傾向を直線で近似し将来を予測する直線回帰モデルを用いて算出すると、長期的に上昇傾向での推移が見込まれる。また、福島県歯科保健基本計画及び厚生労働省「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項（第二次）の目標値と整合性をとる必要があるため、目標値の上方修正を行う。
		実績値		64.0	63.6	66.9							○見直し後の目標値の設定根拠 直近12回（H21年度～R2年度）の学校保健統計調査による12歳児のう蝕の有病状況のデータを基に、福島県歯科保健基本計画のR14目標を設定するために将来推計を算出した結果、R14における推計値が92.3%となり、R14に向けて毎年一定の割合で上昇させる考え方で目標値を設定した。 なお、う蝕や歯周病等の歯科口腔疾患の多くは、自覚症状のないまま罹患・進行する疾患であり、学齢期から継続的な予防が重要であることから、目標達成に向け、フッ化物応用研修会の開催やフッ化物応用マニュアル第Ⅲ版作成、及び小学校における集団でのフッ化物洗口の普及啓発等を実施し、フッ化物洗口に取り組む市町村の拡大・継続などに取り組んでいく。

